県内のアルボウイルス感染症の
サーベイランス結果について

※アルボウイルスとは，蚊，ヌカカ及びダニなどの節足動物を介して脊椎動物に伝播（でんぱ）するウイルスの総称です。

徳島県では，アルボウイルス感染症のうち，アカバネ病・牛流行熱・イバラキ病・アイノウイルス感染症・チュウザン病・ピートンウイルス感染症について，6月・8月・9月・11月の4回の抗体検査によるサーベイランスを実施しています。

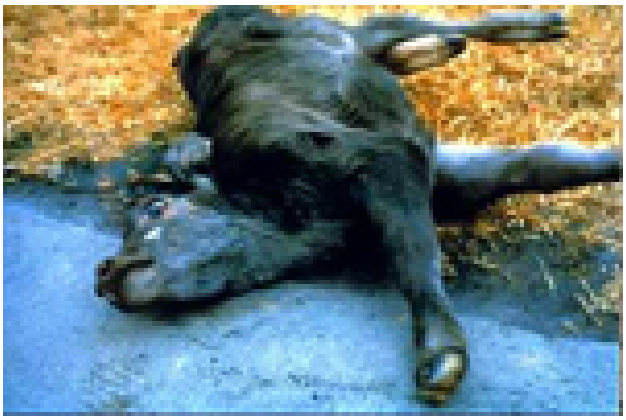
今年度のサーベイランスの結果では、ピートンウイルスの抗体陽転が板野町・脇町・東みよし町で確認されました。

アルボウイルスは，海外の常在地からウイルスを持った蚊やヌカカが風に乗って飛来することによって国内に侵入し，これらが牛を吸血することによって感染が起こります。
近年，温暖化の影響もあり，今まで日本で確認されなかったウイルスも分離されるようになりました。

牛異常産ワクチンとして，今回抗体上昇が見られたピートンウイルスも追加されたワクチンも販売されていますので，来春は発生予防のために御検討ください。

********ピートンウイルス感染症とは********

ピートンウイルスは1999年に長崎県及び宮崎県で初めて分離され，その後，九州・沖縄地方でこのウイルスによる牛の異常産の発生が相次いで報告されています。
抗体検査の結果から，ピートンウイルスは中国～東北地方にも浸潤していると推測され，被害の拡大が危惧されます。
アカバネ病やチュウザン病と同じような牛の異常産の原因となります。



アルボウイルス感染による異常産子牛の写真（動物衛生研究所のHPより）